

# 第32回 とんど祭り



2022.1.9.(日)

10:30~11:30

五常小学校運動場

(入場:西門・東門、少雨決行)

とんどで焼くもの受付 10:50 まで

とんど焼き点火 11:00 (予定)

\*豚汁・焼き芋等の振る舞いはありません

ご来場の皆様に粗品を進呈!

大人用・子ども用先着各 300 名

主催:五常校区コミュニティ協議会

\*新型コロナウイルス感染状況によ  
っては、中止する場合があります。

\*ご入場やとんど見学の際は、感染  
拡大防止のため必ずマスクをご  
着用ください。

\*しめ縄等、とんどで焼くものをご持  
参のときは、必ず針金・みかんなど  
の付属品を取り除き、燃やせる状  
態にして受付にお出しくださいま  
すようご協力ください。

\*ペットの入場は、できません。

\*校内は、禁煙です。

\*近隣の皆さまの迷惑になりますの  
で、お車でのご来場はご遠慮くだ  
さいますようお願いします。

## とんど焼きとは？

日本全国に伝わるお正月の火祭り行事で、田んぼや空き地に長い竹や木、わらや杉の葉などでやぐらを組み、お正月飾りや書初めなどを一箇所に積み上げて燃やし、五穀豊穡、無病息災、家内安全を願う行事です。残り火で餅や団子を食べるとというのが一般的のようですが、全国各地さまざまな風習があるようです。ちなみに、正月飾りを燃やすのは正月の神様を天に送るという意味合いが込められています。

## とんど焼きの由来

とんど焼きの別名「左義長(三毬杖)」は、小正月(1月15日)に平安時代の宮中で、清涼殿の東庭で青竹を束ねて立て毬杖(ぎっちょう)三本を結び、その上に扇子や短冊などを添え、陰陽師が謡いはやしながらかこれを焼いたという行事です。

それが民間に伝わりとんど焼きとなったという説が有力です。

## とんど焼きの語源

「とんど焼き」の語源については諸説あります。

\*火を燃やす時に「尊(とうと)や尊(とうと)」とはやし立てたのが訛って「とんど焼き」になった説

\*竹と一緒に燃やすので、竹が燃える最中に「どんっ」と音を出す様子から「どんと焼き」になった説

\*どンドン火が燃える様子から「どンドン焼き」・「どんど焼き」となった説

呼び名は地方や地域によって異なりますが、「とんど」・「とんど焼き」は近畿地方から中国地方にかけての広い地域で使われています。

他の地域では、「左義長(さぎちょう)」  
「どんと焼き」「どンドン焼き」「オの神焼き」などと呼ばれているようです。

